

松井 亮治 さん

【はじめに】

今回、無事に二次試験に合格いたしました。以下、合格体験記を寄稿させていただきます。この体験談が、今後合格を目指す皆様の少しでもお役に立てば幸いです。

【中小企業診断士を受験した動機】

私は、メーカーで約10年ソフトウェア開発に専念してきました。そのため、知識が技術に偏っており、マーケティングや経営全般の知識不足に対する不安を感じていました。今後、幅広い知識を持ったビジネスマンとして活躍するためには、これらの知識の体系的な理解が必要であると感じていた中、中小企業診断士の資格を知り、勉強を始めました。また、私は地方出身なのですが、将来、地元の中小企業をサポートし、地方の活性化に少しでも貢献したい、という思いがあることも診断士の勉強を始めた理由の一つです。

【受験年度】

2013年 一次試験 合格

二次筆記試験 不合格(CDBA / C) ※2013年までは某大手資格学校

2014年 二次筆記試験、口述試験 合格 ※2014年からMMC2次対策マスターコース

【1年目の勉強】

大手資格学校の土日通学コースを受講しました。一次試験については、勉強量が成果に直結し、過去問を重視して取り組めば合格できると思い、勉強時間をしっかりと確保して着実に勉強を進めることで合格できました。

二次試験についても引き続き同校の土日通学コースを選択しました。事例Ⅳの財務については、計算問題集を毎日解くなど対策ができていました。一方、その他の事例については、勉強方法がよくわからず、何をどう書けば合格かという判断があいまいのまま、本番を迎えてしまい、結果、予想通りの不合格となってしまいました。

【予備校の選択】

不合格後、敗因分析を行い、以下の弱点が敗因と考えました。どちらの弱点も2次試験に受かるうえで致命的です。

- 設問に対する解答の方向性や書くべき内容を理解できていない。
- 採点者にとって読みやすい文章の書き方ができていない。

上記の弱点を克服できる予備校がよいと考え、MMCを選択しました。というのも、MMCは、

- MCサークルや解答の「型」など、解答を導くための多くのノウハウを指導してくれる
- 文章の書き方(文章構成、文の見栄えなど)を指導してくれる

という予備校であり、私の弱点を克服できると考えたためです。また、その他にも、

- 答練や過去問の答案を何度でも添削、アドバイスしてもらえる
- 答練直後に添削、個別面談をしてもらえる
- 答練後の財務小テストやG.W.の財務特訓など、財務の問題に取り組む機会が多い

●講師との距離が近く、相談しやすい
という点も、MMCを選択する理由でした。

【二次試験の勉強方法】

MMC のカリキュラムに従いながら、勉強を進めていきました。

日々の学習スタイルは以下の通りで、平日約 2.5 時間、休日約 6 時間勉強しました。(各番号は、後述する詳細説明の番号と対応しています。)

・平日 電車通勤:②設問対応練習、③サブノートの見直し、④解答の「型」確認、⑤キーワードの暗記、⑥知識の理解、朝:⑦財務計算問題(2問程度)、夜:⑧過去問や答練の答案作成

・土曜日:MMCへ通学(座学又は答練)、①解答手順の作成・チェック、⑦財務計算問題

・日曜日:③サブノート作成、⑦財務計算問題、⑧過去問や答練の答案作成

それぞれ実施した内容について以下に記載します。

解答手順の作成・チェック:80 分の時間配分や解答手順を事細かく決め、チェックリストを作成しました。答練後、チェックリストを使用し、手順通りに解いたかどうかのチェック、手順の追加や削除などのブラッシュアップを行いました。これを繰り返すことで、本番でも焦ることなく、答練と同様の手順で取り組みました。解答手順のベースは3月までに作成し、あとは答練のたびにブラッシュアップする、という取り組み方にしていました。

設問対応練習:事例の設問に対して、MC サークルの該当ポジション、解答の方向性、見えそうなキーワードや解答の「型」、などを瞬時に思い浮かべられるかどうか、通勤中に頭の中でシミュレーションを行っていました。これを繰り返すことで、設問の対応力が高まり、事例を解く際の1問あたりにかかる時間も短くなりました。

サブノートの作成・見直し:答練、模試、過去問などの答案に対する添削コメント、自分の気づき、重要なキーワード等を1事例 1 ページとしてまとめました。通勤中にノートを何度も見直し、ミスしやすい点や重要なキーワードの理解に努めました。

解答の「型」確認:短時間で安定した品質の解答を行うため、設問に対する解答の型を準備しました。たとえば、「成長戦略」を問われたら、「〇〇脅威の中、〇〇の機会を活かし、〇〇の強みで対応」という型で書きます。MMCの模範解答を参考にしながら、型を増やしていきました。

キーワードの暗記:解答に使いそうなキーワードの充実と暗記を行いました。講師の方々のご指導に従い、やみくもにキーワードを充実させていくのではなく、汎用性のあるキーワードであるかどうかを意識しながら、模範解答からキーワードを抽出していきました。また、設問を読んだら瞬時にいくつものキーワードが出てくるようになるまで、毎日キーワード暗記に取り組みました。

知識の理解:MMC の講座では、各事例の専門知識を問う小テストがありました。この小テストで問われた内容を理解しておき、設問を読んだら瞬時に解答パターンをイメージできるようにしまし

た。たとえば、「成果主義のメリット、デメリットは？」という問題に対する解答を理解する、といったことです。ポイントとしては、「切り口」を意識して内容を理解したことです。これを行うことで、設問に対しすぐに解答パターンを思いつくことができ、「答えを探す」というイメージで与件を読めるようになりました。

財務計算問題: MMC では、G.W.に行われる財務特訓に申し込むことで、かなり歯ごたえのある計算問題集をもらえます。10月の本試験直前まで毎日、この問題集の中から2問選択し解いていきました。財務の問題を解く際の「カン」を失わないためにも、財務の問題に日々取り組むことは必須であると思います。

再答案、過去問添削: 答練や過去問の答案を提出し、毎週添削をしていただきました。現時点で最良と考える答案を作成し、それに対するフィードバックをいただき、また答案を作成する、といった取り組みを毎週繰り返すことで、解答品質が高まっていきました。この添削サービスはMMCの非常に大きな特徴であり、ぜひ活用すべきだと思います。

【模試について】

私は MMC 主催の 4 回の模試のみ受けました。3月、5月、8月、9月と定期的に模試があったため、高いモチベーションを維持したまま10月の本試験まで勉強できました。

模試を受ける際、①各設問で6割の点数を確保しているか、②順位が上位 20%以内であるか、③時間配分や解答手順を守ることができたか、の3点を重視しました。模試の成績はまずまずの結果だったので、この勉強の仕方間違っていないと自信がつき、模試後も自信を持って勉強に取り組みました。

【最後に】

本試験は、講師の方々がおっしゃっていた通り、模試や答練より数段難しかったと思います。ただ、上記の勉強をしてきたおかげで、特に緊張や焦りもなく、「いつも通り」に問題を解くことができました。難しい設問はあった一方、王道の設問も含まれており、そのような問題に対しては確実に得点をとれたと考えております。各事例でいくつかミスを起こし、合格発表があるまで不安でしたが、結果的に合格でき、本当にうれしく思っています。

これからは、MMCで学んだ知識や経験を活かし、積極的に診断士活動を行っていきます。

MMCの講師の方々には大変お世話になりました。近くのカフェにて勉強方法の悩み相談に応じていただいたこと、何度も何度も答案の添削や解法のアドバイスをして頂いたこと、定期的に「勉強の調子はどう？」と気遣って頂いたことなど、先生方の熱心なご指導、ご支援のおかげで無事に合格できました。この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。